

「女性の自立とは？～女性の自立をはばむものは何か～」

(報告)

一般社団法人大学女性協会

【開催趣旨・目的】

(一社)大学女性協会は女性の高等教育の向上、男女共同参画社会の推進、国際協力と世界平和を目的とした 1946 年創設の NGO で、啓発・提言、奨学金、国際支援、国際ネットワークなどの事業を通して女性リーダーの育成を目指しています。

今年度は昨年のシンポジウムに引き続き、「女性の自立とは？」をテーマに“女性が真（ほんとう）に輝く社会”を形成するためには「女性の自立」が前提です。
女性の自立をはばむものは何か？
女性と税制を含め、女性の働き方を探る 2015 年度のセミナーを開催します。

【セミナー等の名称・テーマ】

「女性の自立とは？～女性の自立をはばむものは何か～」

【日時】 2015 年 10 月 17 日(土) 13:00～17:00
10 月 18 日(日) 9:30～16:00

【場所】 つくば国際会議場

【参加者数】

| | 来賓・発表者等 | 会員 | 一般 | 学生 | 合計 |
|-------|---------|----|----|----|-----|
| 10/17 | 7 | 73 | 26 | 1 | 108 |
| 10/18 | 4 | 67 | 14 | 0 | 85 |

2 日間の延べ人数 193 名

【プログラム】

10 月 17 日

| | | |
|-------------|-------|---|
| | 総合司会 | 牧島悠美子 (茨城支部会員) |
| 13:00 | 開会の辞 | 縄田真紀子 (副会長・実行委員長) |
| 13:05～13:15 | 主催者挨拶 | 中村久瑠美 (大学女性協会会長) 酒井香世子 (内閣府 男女共同参画局 政策企画調査官) |
| 13:15～14:45 | 基調講演 | 鹿嶋敬 ・ 一般財団法人女性労働協会会長 ・ 内閣府男女共同参画会議議員 |

「女性の自立をはばむものは何か？」

～第 4 次男女共同参画基本計画・策定に携わって見えてくるもの～

14:45～15:00 ～ 休憩 ～

15:00～16:30

①支部発表

茨城支部 : 「対話から学ぶ これからのワークライフバランス

～茨城大学連続出前教室実践報告～」 井坂美子

神奈川支部: 「女性の活躍のため、大学女性協会が提言できることは何か」

丸山若重

静岡支部 : 「女性の自立～世界の女性と連帯し、世界と地域を結ぶ～」

鍋倉伸子

②委員会発表 女性エンパワーメント委員会:「めげないわたし」養成講座
城倉純子(委員長) 中曾美穂子(受講生)

16:30～17:00

マルイチ会発表 「シングルを生きる」
吉川愛美、草野裕子、稲葉幸枝

10月18日(日)

9:30～10:00

講話 「配偶者控除について考える」
長沼早苗(税理士・茨城支部会員)

10:00～10:30

講演 「行政相談と女性の社会参画」
小野勝久(茨城行政相談委員協議会会長)
今高博子(茨城行政相談委員協議会副会長・茨城支部会員)

10:30～10:45

～ 休憩 ～

10:45～12:30

分科会

- ①「考えよう！ 女性と法律・社会通念」
チーフ 中島美那子(茨城支部会員)
- ②「どうする？ 女性と税制・社会保障」
チーフ 仲田 章(賛助会員)
- ③「これからの女性と仕事」
チーフ 松本由美子(理事・茨城支部会員)

12:30～13:30

～ 昼食 ～

13:30～15:45

パネルディスカッション 「女性の自立支援を考える」
コーディネータ : 中村久瑠美
パネリスト : 分科会チーフ
マルイチ会 (吉川愛美、佐野康子)
松村和子 (理事・神戸支部会員)

16:00

閉会の辞 梅田和子(副会長・企画委員長)

【セミナー等を通して得た成果(効果)と課題】

今回のセミナーは「国・地方連携会議「ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」に採択され、内閣府・男女共同参画推進連携会議と当協会の主催によるセミナーで、会員外の方の出席も多く、アンケートに多くのご意見を頂きました。

法律、税制、社会保障、社会通念、そして仕事が女性の自立とどのようにかわるか考える場として、分科会を開催、それぞれに具体的な課題、例えば法律においては行政相談や人権擁護制度について、税制においては所得削除や配偶者控除について、シングルマザーとして生きて行く上でぶつかる問題について、専門家による解説に加え、支部が行っているアンケート調査結果の報告、各テーマに関連した会員の体験談は心を打つ内容であった。との意見があった。

女性が自立するということは「人生を自分らしく生きる」ということ、そのことをセミナーを通して、考えることができたのは成果であったと思われる。

今後は大学女性協会の活動を通して、女性の自立を支援していきたい。

【今後の課題】

(一社)大学女性協会は女性の高等教育の向上、男女共同参画社会の推進、国際協力と世界平和を目的とした1946年創設のNGOで、啓発・提言、奨学金、国際支援、国際ネットワークなどの事業を通して女性リーダーの育成を目指しています。

その取り組みの一つとして、シンポジウムやセミナーを開催しています。

女性がリーダーシップを発揮するには、女性の自立が前提です。

女性の自立を支援するために、大学女性協会として、何が出来るか？を、現在の女子学生への奨学金事業だけではなく、社会に出た女性への支援を行うための活動を小さなことからでも、始めて行きたいと考えている。



「香川発！「女性と男性は半分・はんぶん」

～2030年に完全な男女平等（50-50）を目指して～

（報告）

団体名：特定非営利活動法人 日本BPW連合会

【開催趣旨・目的】

今年、国連がCSW政治宣言及び9月総会のSDGsで「2030年までに完全な男女平等（50-50）の実現」を目指そうという目標が示されたことに注目し、人口の半分は女性なのに、議会も経済界も女性は少数派で、正規雇用ですら女性の平均賃金は男性の7割程度という日本の現状を認識し、このような不平等を解消するための「完全に平等な社会の実現に向けてのメッセージ」を地方から発信する。併せて若い世代や男性たちにも広く啓蒙する。

また今回の取り組みをモデルケースとして全国へ展開する。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「香川発！「女性と男性は半分・はんぶん～2030年に完全な男女平等（50-50）を目指して～」

【日時】 平成27年11月1日（日） 13:30～16:30（開場13:00）

【場所】 サンポートホール高松 61会議室（香川県高松市サンポート2-1）

【参加者数】 会員・一般 83名、（出演者・関係者除く）

【プログラム】

13:30～ 開会

13:35～ 基調報告とリレートーク

「世界の潮流は男女半分・はんぶん」

国連女性の地位委員会参加者からの報告と共に、真のジェンダー平等を実現するための課題と取り組みや、今後の抱負をリレートーク

（スピーカー）

【基調報告】

平松 昌子（第59回国連女性の地位委員会（CSW）政府代表団顧問、国連NGO国内婦人委員会副理事長、日本BPW連合会企画委員長）

【リレートーク】

- ・山村 鈴奈（九州大学大学院 学生、CSWインターン）
- ・志水 彩乃（民間企業職員、兵庫県男女共同参画推進員、CSWインターン）
- ・大内 通江（医師）
- ・徳田 善紀（丸亀市副市長）
- ・松本 寿（四国メンテナンス株式会社代表取締役）
- ・中村 芽子（香川大学 学生 教育学部人間環境教育コース）
- ・富田 祐策（香川大学 学生 経済学部）

（コーディネーター）

- ・名取 はにわ（日本BPW連合会理事長）

15:10 グループ討議（10名×8グループ）

（アドバイザー）

- ・平松 昌子
- ・岡内 須美子（日本BPW連合会副理事長）
- ・名取 はにわ
（ファシリテーター）
- ・藤原 奈緒美（蓮音マネジメントサービス代表）
- ・中橋 恵美子（NPO法人わははネット理事長）
- ・谷岡 理香（東海大学文学部広報メディア学科教授）
- ・小泉 曜子（むさしのヒューマン・ネットワークセンターコーディネーター）
- ・林 智意（一般社団法人「MIT」代表）
- ・居石 真理絵（(独)日本スポーツ振興センタープログラムマネージャー）
- ・渡部 道子（(株)ケーブルパーソンズ取締役）
- ・花崎 正子（北九州デザイナー協会副理事、都市生活研究会代表）

16:00 交流会

16:25 「香川アピール」採択 閉会

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

基調報告・リレートークでは、真のジェンダー平等を実現するための課題と取り組みや今後の抱負を、地元の女性、男性企業経営者、イクボス宣言の副市長、香川大学の学生、CSW インターン経験者たちが語り、またその後のグループ討議では、参加者全員が8つの小グループに分かれて、課題とその解決策についてファシリテーターを中心に議論を深め、それぞれの議論について報告した。これらに基づき「香川アピール」（次頁に貼付）を採択した。

若い男女の学生を含む多様な発言があったからこそ、小グループの議論は熱気を帯びて大いに盛り上がり、時間が足りないほどだった。

参加者達が、何らかの気づきを得て、この問題に対する関心を持ち帰ったと確信する。この成果を踏まえ、他地区での開催など今後の全国活動につなげていきたい。

【今後の課題】

今回の成果物である「香川アピール」によって、関係行政機関にその実現を訴えると共に、マスコミ等を通じて広く周知し、一人一人の考えを深化させ、さらにネットワークを広げ、将来の活動につなげたい。

参加者中男性は14名だったが、グループ討議でそれぞれ積極的に発言しているのが印象に残った。今後男性のさらなる参加を促進し、男性と共に格差を解消していく土壌作りが今後の課題と言える。

〈香川アピール〉
2030年に完全な男女平等の実現を目指すシンポジウム
「香川発！女性と男性は半分はんぶん」で採択
特定非営利活動法人 日本BPW連合会
2015年11月1日 サンポートホール高松(香川県)

◆ 私たちは、上記のシンポジウムを通じて以下のことを確認しました。

1. 日本における女性と男性との格差が、政治・経済・教育などのあらゆる分野で世界各国と比較して大きいこと
2. 国連は、3月の第59回女性の地位委員会「政治宣言」と9月の第70回国連総会で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、2030年までに完全な男女平等（50－50）の実現を目指して活動することを決めたこと
3. 世界の人口の半数は女性であり、完全な男女平等の実現は当たり前だということを改めて確認したこと

◆ 参加者全員の討議を通して、以下の「香川アピール」を採択しました。

1. 女性も男性も、子どもの有無にかかわらず、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実現し、男性も育児休業取得率100%を実現しましょう
1. 女性たちは、進学にあたっての選択や、政治・経済活動への参画などで、その持てる権利を知り、行使し、さらに進化させましょう
1. 教育、健康、政治、経済などすべての分野で女性と男性が「半分はんぶん」の社会が2030年までに実現するよう、香川から発信しましょう
1. そして、今、この瞬間から動き出しましょう

増える貧困女子 ～若年女性を取り巻く性暴力と貧困の現状～

(報告)

団体名 : 大阪府・大阪府配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援ネットワーク

【開催趣旨・目的】

近年、貧困が社会問題となっている。とりわけ若い女性の貧困は、教育や就労機会からの排除、性搾取、予期せぬ妊娠などと深く関わり、複合的に困難な状況に陥るケースが多い。このため女性の人権や女性に対する暴力の根絶、女性の自立等についての理解を促進するため、若年女性の性暴力と貧困をテーマとしたシンポジウムを開催する。

シンポジウムでは、学識経験者及び少女たちの支援活動を行う NPO 法人代表から、若い女性の性暴力・性搾取や貧困の現状、貧困の連鎖を断つ取り組みやキャリア教育について語っていただくことにより、貧困女子を生み出さない社会について一人ひとりに考えていただくきっかけとする。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

増える貧困女子 ～若年女性を取り巻く性暴力と貧困の現状～

【日時】平成 27 年 11 月 27 日（金）18:00～20:00

【場所】ドーンセンター7階ホール（大阪府中央区大手前 1-3-49）

【参加者数】167 名

【プログラム】

○主催者挨拶 大阪府府民文化部男女参画・府民協働課長 長澤 研一

○講演「性暴力・貧困・社会的孤立 ～若年女性を取り巻く複合的困難～」
戒能 民江氏（お茶の水女子大学名誉教授）

○講演「生きづらさを抱える 10 代 20 代の女の子たち」
橘 ジュン氏（特定非営利活動法人 BOND プロジェクト代表）

○パネルディスカッション「若年女性を取り巻く性暴力と貧困の根絶に向けて」
ファシリテーター：仁科 あゆ美氏

（大阪府男女参画推進財団理事兼統括ディレクター）

パネラー：戒能 民江氏

橘 ジュン氏

前 比呂子氏（追手門学院大学教授）

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

（シンポジウム全体について）

社会的に話題となっている「女性の貧困」をテーマにしたため、周知段階から各方面での関心が高かった。当日は大阪府だけでなく遠方からの参加も多く、各出演者の話に参加者が熱心に聞き入る様子から、当事業の目的である「貧困女子を生み出さない社会について一人ひとりに考えていただくきっかけ」になったと確信する。

出席者についても、中学・高校・支援学校等の様々な校種の教育関係者や、福祉関

係者、女性団体等、テーマに関心の高い人が多数参加した。

(開催時期・時間帯等について)

「女性に対する暴力をなくす運動」関連行事として運動期間に合わせて実施したことにより、大阪府広報紙「府政だより(約290万部発行)」に掲載できるなど効果的な広報ができた一方、行事が重なる時期のため参加しにくいとの声もあった。

今回は教育関係者、福祉関係者等だけでなく、中・高校生・大学生とその保護者にも参加対象を拡大したため、学校や仕事帰りに参加できる夜間に開催時間を設定した。学生への周知のために、府立・私立の校長連絡会を通して府内の全高校へシンポジウムを周知するとともに、学校へ集中的にポスター・チラシを配布し参加を呼びかけたが、実際には学生の参加者はほとんどいなかった。その一方で、大阪府福祉部を通じて市町村福祉部局へ周知したところ、普段男女参画関連事業にほとんど参加のない福祉関係者の参加が多数あった。

開催時間帯については、教育関係者、福祉関係者等からも職務として参加できるように、平日の昼間に開催してほしいとの要望が多かった。

【今後の課題】

講演2つとパネルディスカッションを実施したが、出演者は各々見識や実績が豊富であり、2時間では深い部分まで話していただくことができなかった。今回のシンポジウムを通じ、教育や福祉だけでなく就労の分野においても「女性と貧困」に高い関心があることが分かった。今回のシンポジウムの内容を一つ一つ掘り下げてセミナーを開催するなど、引き続き、このテーマの啓発に努めていく。

女性の人権や女性に対する暴力の根絶、女性の自立等についての理解を促進するためには、今回と同様のシンポジウム開催をはじめとする啓発が必要であり、内閣府と共催することにより高い波及効果があると考えため、今後も連携して取組みを推進したい。

【記録写真】

1. 主催者挨拶



2. 戒能氏講演



3. 橋氏講演



4. パネルディスカッション



「木づかい」産業における男女共同参画推進による地域活性化—中部地域をモデルケースとしたワークショップ—

(報告)

団体名 : (一社) 日本森林学会, (一社) 日本木材学会

【開催趣旨・目的】

本ワークショップは、日本の「木づかい」産業を構成するそれぞれの組織において、どのような仕組みを構築すれば、林業・木材産業に従事し継続して活躍する女性を増やすことができるのかを皆で考え、相互に意識啓発を行う場とすることを目的とした。「木づかい」産業に携わる女性、産業界、森林を管理する行政、関連分野に基盤を持つ学界、「木づかい」産業の活性化により恩恵を受ける地域社会の 5 者が一堂に会する場を作ることで、(1)木づかい産業が創るこれからの地域社会像を描き、互いに共有すること、(2)新たなネットワーク形成のきっかけとすること、(3)将来担い手となる次世代に「木づかい」産業の魅力と可能性を伝えることを目指した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

「木づかい」産業における男女共同参画推進による地域活性化
—中部地域をモデルケースとしたワークショップ—

【日時】2015 年 11 月 29 日 (日) 13:00~17:00

【場所】名古屋大学豊田講堂シンポジオン

【参加者数】一般参加者 81 名、学会関係者および登壇者 26 名

【プログラム】(敬称略)

司会進行：中山 榮子 (日本木材学会・昭和女子大学教授)

- | | | |
|-------|----------------------|--|
| 13:00 | 開会・趣旨説明 | 「木づかい」産業における男女共同参画推進のために 竹中 千里 (日本森林学会・名古屋大学教授) |
| 13:10 | 基調講演 | 「男女協働で最高のパフォーマンスを」 原 薫 (株式会社柳沢林業代表取締役) |
| 13:50 | 事例紹介 | 「私が選んだ仕事、そして夢」 大西 沙織 (中部森林管理局技術普及課 緑の普及係長) 河合 美希 (東白川村森林組合) 小峰 裕美 (株式会社フジイチ) 都築 知佳 (兼房株式会社) 久野 奈穂子 (なな喜設計事務所代表) |
| 14:50 | 休憩 | |
| 15:10 | ワークショップ (コーディネータ) | 「木づかい産業が創る 20 年後の地域社会」 山崎 真理子 (日本木材学会・名古屋大学准教授) 高野 雅夫 (名古屋大学教授) |
| 16:50 | 閉会の挨拶 | 河野 充 (中部森林管理局次長) |

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

本シンポジウムでは当初目標としたように、「木づかい」産業に関わる様々な立場の男女参加者を得ることができ、結果として「木づかい」産業が創る地域社会の未来像を共有するという目的を十分に達成することができた。またワークショップのプログラム終了後も会場には多くの参加者が残り名刺交換をしたり談笑したりする姿が見られ、新たなネットワーク形成の場を提供するという目的も達成することができたと考える。

このような成果を上げることができた要因として、まず本ワークショップの企画において「木づかい」産業というキーワードを設定し、前面に掲げたことが挙げられると思われる。これにより参加者にはワークショップの目的があらかじめ理解されており、イメージが共有されやすかった。また、「中部地域」と地域を限った点も、参加の敷居を下げることにつながり、結果として多様な参加者を得ることにつながったように感じた。「木づかい」産業、中部地域とターゲットを絞り込んだことはネットワーク形成にもプラスに働いた。会場では共通の知り合いをきっかけに話が弾む例もあり、いきなり全国規模のネットワークを作ろうとするよりも、具体的、実質的な人の繋がりができたようであった。

これらに加えて座って聴くだけではない参加型のプログラムを設けたこと、そのコーディネータがこのようなプログラムに習熟していたこと、参加者数の規模が適切であったことなどもワークショップ成功の要因として挙げることができる。

本ワークショップを通して、「木づかい」産業における共同参画の意識は思ったよりも進んでいる印象を受けた。事例紹介で登壇くださった川上～川中～川下のどの業種においても、女性も含め多くの若い世代に仕事先として当該業種を選んでほしいという熱意が感じられた。しかしそのために「木づかい」産業からの発信力を、より高めなければならないということは、ワークショップを通じて感じられた課題のひとつである。参加者からは「次はどの地方でワークショップを行うのか？」との期待の声も聞かれ、今後も何らかの形で「木づかい」産業関係者が一堂に会し、共通認識を持つ次のステップとして次世代に情報発信をしていく取り組みが必要である。

【今後の課題】

前述のように今後も何らかの形で同様の取り組みを続けることは課題として挙げられる。その際の運営についてはより効率的、効果的な方法を検討する必要があるかもしれない。特に今回のようなワークショップ運営の方法は初めてであったため、戸惑う点も多く、結果として関係各方面にも多々ご迷惑をおかけしたと認識している。例えば事前に同事業下で行われた過去のシンポジウム等の事例（報告書など）なども拝見できるともう少しスムーズにワークショップ運営に入れたかもしれない



親子で考える理系の夢への挑戦

(報告)

団体名 : 一般社団法人日本女性科学者の会

【開催趣旨・目的】

先進国の中で、女性科学者の比率が統計学的数値として少ないことが明らかにされている日本。その背景には、日本社会において女性が就業し続けることの難しさに加え、出産、育児、介護によって一度離職した後の復職のしにくさなど、現状での社会環境が大きく影響していると考えられる。一方、若い女性の専業主婦嗜好も増加していることから、女子中高生に対して女性が仕事を持ち続けることの必要性及び重要性を啓発することが求められる。

このような認識の基、本会では豊富な人的ネットワークを活用し、2013 年度、2014 年度と連続して女子中高生を対象とし、理系の学問と仕事の楽しさを紹介することにより、女子中高生に未来の自分を創造してもらう趣旨のシンポジウムを開催した。その経験と得られた成果の分析の中で、保護者や中等教育関係者の理系進学に対するより一層の理解や協力が重要課題であることが判明した。

そこで本年度は、今まで着目をしてきた医療や福祉分野のみならず、理系分野に対してより幅広い視野を持ってもらえるよう、さまざまな分野の第一線で活躍されている方々にお話を伺い、理系の仕事を紹介し、理系進学と就業への夢や希望が持てるような講演を企画する。講演後は、今までのシンポジウムで好評を博し、参加者に大きな達成感を与えることができた全員参加型のグループ討議の時間を企画する。今年度は、保護者や教育関係者にも積極的な参加を期待し、親子で理系を身近に感じてもらい、特に中高生には理系進学後の自分自身の未来予想図を描くことが可能となる機会とする。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

親子で考える理系の夢への挑戦

【日時】 12月20日(日) 10:00~16:00

【場所】 学校法人 九州文化学園 長崎国際大学

【参加者数】 124名(一般参加者)36名(sjws, 学生ファシリテーター、大学教員)

【プログラム】

10:00 開会

開会挨拶 功刀 由紀子 氏 (日本女性科学者の会 会長)

来賓挨拶 安部 直樹 氏 (長崎国際大学学長・理事長)

10:10 第1部

基調講演 潮谷 義子 氏 : 「生命の不思議を知る」

講演 「理系での挑戦 一夢を仕事に一」

山口 敦子 氏 : 「海洋のいきものについて教育・研究する仕事とは？」

木村 了 氏 : 「女性技術者と資格」

勝山 雅子 氏 : 「きれいを応援する企業で～化粧品ができるまでの研究～」

大石 昌代 氏：「面白い！を追いかけてーポジティブ挫折のススメ」

12:00 休憩（昼食）

12:40 第2部 グループディスカッション

14:20 休憩

14:35 第3部 各グループ発表

15:50 総括 功刀 由紀子（日本女性科学者の会 会長）

閉会挨拶 酒井 香世子（内閣府男女共同参画局 総務課政策企画調査官）

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

今回のシンポジウムでは、理系進学において重要な決断が迫られる学部選択に対し、有効な情報提供がなされことは、大きな成果といえるであろう。

中高生が将来の夢を描いた際、それらを具体化するための方策や道のりを計画するには、現場に関わっている実態を踏まえた情報が必要である。しかし、中・高等学校での進路指導においては、医療方面であれば医学部、製薬方面であれば薬学部といった一義的な選択情報しか提供されていないのが現状であろう。今回の講演では、製薬、化粧品、都市計画といった方面のみならず、現状の社会で展開・活躍している様々な職種に、生物分野から工学分野にわたる多様な理系学部出身者が関わっていることが報告された。

さらにこの報告により、理系に進学しても将来の職種は限定されるものではなく、多方面の仕事に就き活躍できることが明らかにされ、理系進学における学部選択に関して、中高生、保護者、教育関係者すべてにとって有用な情報が提供されたと考えている。この成果は、参加者へのアンケート調査における自由記述からも明らかである。

第2部グループ討論では、理系進学や就業に対する様々な期待、不安、望ましい支援策が議論された。今回の参加中高生は、理系進学希望者のみではなく、現在検討中の中高生も多く、既に明確な意見を持っている生徒から、大人たちには見えない不安を持ち、支援が必要と考える生徒もあり、参加中高生にとって立場や意識の違いが新鮮な気持ちとなって討論できた様子が、アンケート調査から伺うことができた。

本会は、2013年度福島、2014年度名古屋、そして2015年度佐世保において、ほぼ同様のプログラム構成によるシンポジウムを企画し、本事業に採択されて来た。その結果、3回の結果を比較することから見えてきたことは、地域による中等教育実施方針の相違、特に高校生に対する進路指導・受験対応の相違である。今回、高校1年時から理系・文系の進学コースを分ける方式に不安の声が上がっていた。この点については、今回のシンポジウム終了後、長崎県の高等学校校長経験者の方から「当事者達も決して良い策とは考えていないが、県全体の方針として実施している。自分も現職当時は、疑問を抱いていた。」との見解を伺った。

このような地域性、あるいは地域差ともいえるべき状況への対応は、文部科学省と内閣府が連携すべき課題事項であろう。しかし他方では、今回の企画で着目した支援策の提案に関して、効果的かつ有効な支援策の提案に当たっては、現場の状況を的確に把握し踏まえたうえでの政策提案が必要であり、そのための情報収集・蓄積の促進という前向きな捉え方も可能である。

以上のような成果分析を通して、課題も明確となってきた。

今回着目をした支援策提案の基となる保護者からの理系進学やその後の就業に対する不安が、予想とは異なり殆ど出されなかった。理系進学に関するイベントが多数開催されており、医療分野や宇宙分野での女性の活躍も頻繁に報道されている昨今、保護者の意識改革も進んでいると推測される。しかし一方で、今回のようなイベントに参加する保護者はいまだに意識の高い層であり、今回の参加者が一般的な層であるとの判断は早計であり、バイアスのかかった状況であることを認識しなければならない。

この課題は、保護者のみならず教育関係者にもかかわる事項である。こと教育に関わることは文部科学省の役割とされており、前述のごとく省庁間が共同で進めなければいけない課題ではある。しかしながら、本イベント開催における啓発という趣旨は、本来意識の進んでいない層を対象としているため、参加者の掘り起こしと参加促進に関する企画や集客方法を考える必要も喫緊の課題である。

本シンポジウムでは、今後の進路を決めるうえで中高生、保護者、教育関係者がどのような姿勢でいけばよいのかを知る機会となり、大変有意義であった。このような評価は、参加者アンケートにおける本シンポジウムへの評価として、「とても良かった」「良かった」の合計がほぼ100%であることから示される。

最後に、本シンポジウムで着目をした望ましい支援策として、財政面での支援という要望はなく、もっぱら情報提供が求められていたことを強調しておく。そこで、本シンポジウムからの要望として、地域の中高等教育方針、特に進路指導方針を踏まえたうえでの的確な進路選択情報（大学や理系学部情報のみならず、本シンポジウムでの講演内容等）の早期提供・発信を支援策として要望する。

【今後の課題】

前述の如く、本来、意識の進んでいない層を対象としたイベント開催が必要である。男女共同参画事業が推進されている中で、女子中高生の意識啓発に関する事業は、本共催事業を始めとし、文部科学省やJSTからの補助金を受け、国公立大学法人等多くの大学で類似の取り組みが行われている。今後は、他のイベントとの差異化をどのように図るかに加え、参加者の掘り起こしと参加促進に関する企画や集客方法を考えることが必要な課題であろう。

加えて、このような情報発信・提供が、初等教育も視野に入れたできるだけ早い時期に実施できれば、より国民全体の意識改革に有効であると考えられる。

最後に、当日のイベント実施運営について、一言触れておきたい。企画や講師、参加者が優れていても、実際のイベント運営が稚拙であれば、盛り上がりや欠如し出るべき成果も引き出せずに終わってしまう。今回運営に携わった業者は、昨年も本会と協働をしたが、今年度は昨年度にも増して不手際が目立つ運営であり、実績を積んだイベント運営業者とはとても評価できない状況であった。運営業者選択の方法は、内閣府として選択の余地はないかもしれないが、決定後の協働の在り方等、今後の課題として言及しておく。

女子中高生の医療分野進路選択支援～私もなれる！いのちを支える専門職～

(報告)

団体名 : 公立大学法人奈良県立医科大学

【開催趣旨・目的】

国の第3次男女共同参画基本計画で掲げる重点分野のうち、第10分野に「生涯を通じた女性の健康支援」があり、その中に医療分野における女性の参画拡大が挙げられている。現在女性医師の割合は19.7%（平成24年12月）と低く、日本は国際的にも女性医師割合が最も低い国のひとつである（OECD調査）。女性医師増加のためには、さらに多くの女性の医学部入学が望まれる。一方、看護師や薬剤師においては、女性割合は高いが、生涯にわたる就業継続に問題を抱える。医療分野における女性の参画拡大のためには、女子中高生、保護者、教員に医療分野への興味や関心を抱いてもらうことが重要である。

今回は、医療専門職として活躍する女性の基調講演やパネルディスカッションを行い、医療分野には女性が活躍できる多様な仕事があること、生涯にわたり就労を継続する喜びを女子中高生、保護者、教員に伝えた。また、女子中高生には、医学・薬学・看護学の仕事の一端を身近なロールモデルである医療系大学の女子学生と共に体験する機会を提供し、全体を通して医学・薬学・看護学への進路選択を動機づけることを目的として開催した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

女子中高生の医療分野進路選択支援～私もなれる！いのちを支える専門職～

【日時】 平成28年1月11日（月・祝）

【場所】 奈良県文化会館

【参加者数】 138名（女子中高生87名、保護者51名）

【プログラム】

13:00 開会挨拶 細井 裕司（奈良県立医科大学 学長）

13:10 基調講演 「私の進んできた道、そしてこれから」

司 会：車谷 典男（奈良県立医科大学 女性研究者支援センター センター長）

講演者：平井 都始子（奈良県立医科大学 中央内視鏡・超音波部 准教授）

13:45 パネルディスカッション 「あなたもなれる！いのちを支える専門職」

●パネリスト

松元 加奈（同志社女子大学 薬学部 医療薬学科 専任講師）

横谷 倫世（社会医療法人健生会 土庫病院 消化器病センター 外科医師）

五十嵐 稔子（奈良県立医科大学 母性看護学 教授）

霧下 由美子（奈良県立医科大学附属病院 看護師長）

●コーディネーター

須崎 康恵（奈良県立医科大学 女性研究者支援センター マネージャー 講師）

14:30 体験型学習「医療専門職ゼミナール」（中高生のみ）

● Aコース（内科・助産・薬学）

体験の順番◆ A-1 内科→助産→薬学 ◆ A-2 助産→内科→薬学

● Bコース（外科・看護・薬学）

体験の順番◆ B-1 薬学→外科→看護 ◆ B-2 薬学→看護→外科

●体験学習のリーダー

内科 太田 浩世（奈良県立医科大学附属病院 呼吸器・アレルギー・血液内科 診療助教）

助産 五十嵐 稔子（奈良県立医科大学 母性看護学 教授）

外科 横谷 倫世（社会医療法人健生会 土庫病院 消化器病センター 外科医師）

看護 霧下 由美子（奈良県立医科大学附属病院 看護師長）

薬学 松元 加奈（同志社女子大学 薬学部 医療薬学科 専任講師）

●コーディネーター

須崎 康恵（奈良県立医科大学女性研究者支援センター マネージャー 講師）

水野 文子（奈良県立医科大学女性研究者支援センター微生物感染症学 講師）

吉元 千陽（奈良県立医科大学女性研究者支援センター 産婦人科学 助教）

16:45 まとめ

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- ・ 講演やパネルディスカッションを通じて、普段接することの少ない大学勤務の女性医師、女性研究者、女性外科医師の存在や活動を周知した。
- ・ 医療分野には、医師、助産師、看護師、薬剤師、研究者等の多様で魅力的な職種があることを示し、女子中高生が自分にあった医療分野の進路を考える機会を提供した。
- ・ 女性医療専門職の方々の学生時代の思い出、専門職を目指した動機、キャリア形成上の苦労話等、今までの人生を振り返る講演やパネルディスカッションから、女子中高生に等身大のロールモデルの姿を示し、勉強へのモチベーションを高めた。
- ・ 女性が家庭を築きながら医療専門職として働き続けることは特別なことではなく、就労継続は人生の大きな喜びであることを伝えた。
- ・ 医学、薬学、助産学、看護学の仕事の一端を身近なロールモデルである医療系大学に通う女子大学生と一緒に経験することで、女子中高生に仕事の面白さを実感し、医学・薬学・看護学への進路選択を動機づけることができた。

【今後の課題】

- ・ 参加者の申し込みが多く、応募期間途中で定員を超えたため応募を中止せざるを得なかったため、今後は規模の拡大を検討する必要がある。
- ・ 1つ1つの体験型学習の時間が短かったという意見があり、今後は体験型学習の時間を延長するか、体験できる学習を今回の3種類から2種類に減らすかの検討が必要である。
- ・ 医学・薬学・看護学科卒業後のロールモデルとして、今回は病院の医療職員や大学教

員を紹介したが、卒後の進路は病院や大学以外にも、企業や行政、研究所等多様である。今後は、企業、行政、研究所とも連携し、多様なロールモデルの紹介や職業体験の場を設け、女子中高生と保護者に医療分野へのより一層の興味喚起を図りたい。

企業×女性起業家のマッチングイベント ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです-WEPs (女性のエンパワーメント原則) の実現に向けて-

(報告)

団体名 : 一般社団法人東京ニュービジネス協議会/J300 実行委員会

【開催趣旨・目的】

WEPs (女性のエンパワーメント原則) の第5・6原則の実現に向けて国連の UNWOMEN とグローバルコンパクトが作成した7原則で構成される WEPs (女性のエンパワーメント原則) の第五・第六原則の促進を図るイベントである。

署名企業は各原則の遂行に尽くしているが、「ステークホルダーや地域との参画」を謳った第5原則、第6原則は、各社内で実施される管理職の登用促進や教育・研修機会の提供などの取組とは異なり、その活動方法や取組の在り方が模索されている。日本における WEPs の展開を考える際、第5、第6原則の活動方法を検討することは極めて重要であり、それは、WEPs の特徴が「職場だけでなく市場、地域とともに取り組む」ということにあること、さらには、男女共同参画社会の創造と深く関係している。こうした現状に鑑み、本事業では、第5原則のうち「女性の経営者や起業家との取引の発展、取引先や同業者の関与」、第6原則のうち「ステークホルダーや当局、その他の機関との協働促進」にフォーカスする。本事業では以下の成果が期待される。

- ①WEPs 署名企業や女性のエンパワーメントに関心がある一般の方々と女性起業家との間に接点を生み出すことで、男女共同参画社会の創造と理解を深める機会となる。
- ②女性起業家の業務内容を広く社会に発信し、取引機会を創出するとともに、WEPs 第5、6原則への取組の好事例を発信する。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

企業×女性起業家のマッチングイベント

ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです-WEPs (女性のエンパワーメント原則) の実現に向けて-

【日時】 2016年2月10日(水) 13:00~17:15

【場所】 イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA

【参加者数】 253名

【プログラム】

■トークセッション

- ・全国各地で活躍する女性起業家たちの取組紹介
- ・女性起業家×企業のコラボ先進事例の共有

■ミニ交流会

女性起業家が自信の事業をPRし企業の担当者と交流

■プレゼンテーション

14社の大手企業からいただいた事前課題に対し女性起業家のべ77社がプレゼン

■クロージングセッション

総括発表

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- 約 250 名の来場者に、女性起業家の取組を広く知ってもらうきっかけづくりとなった。
- ・トークセッションでは全国各地から計 7 名の女性起業家が登壇。
- 「大手企業と女性起業家の取引先進事例」と「全国各地で活躍する女性起業家の取組」を来場者と共有した。
- ・立ち見を軽減するための**ビジョンエリア**や**託児エリア**を設けたことでより多くの参加者にイベント参加してもらうことができた。



▲トークセッション1の様子



▲トークセッション2の様子

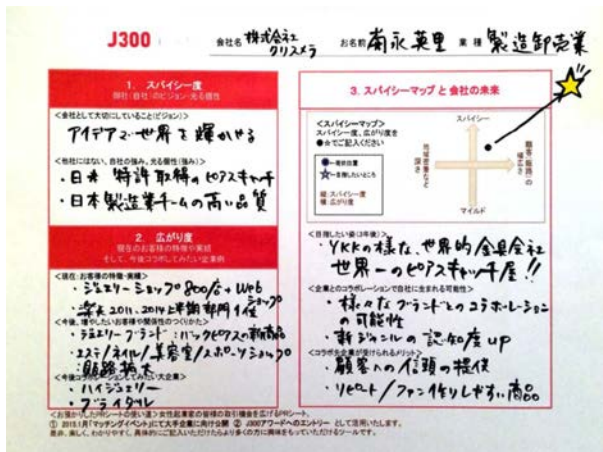


▲託児スペースの様子



▲ビジョンエリア含め満員御礼

- 企業、女性起業家双方に取引イメージをもってもらうことができた。
- ・提携先企業担当者がトークセッションに登壇し、企業担当者目線からも女性社長との提携裏話が聞ける貴重な機会となった。
- ・**女性社長共通の「PR シート」**を使用した交流会では、女性起業家が自身の特徴を可視化し、事業を他の参加者に知ってもらえる機会となった。企業からの参加者は女性起業家との具体的なコラボイメージを共有することができた。



▲PR シート



▲ミニ交流会の様子

■ **プレゼン通過率大幅増**。第五原則の促進に向けた具体的な成果につながった。参加企業より「もっと詳しく聞きたい (アポ・メール)」との評価は 43% (33/77 プラン) となり昨年よりプレゼンプラン数 (19→33)、通過率 (36%→43%) とともに大幅増。また、昨年と比較し **プレゼン欠席率はゼロ** となった。



▲プレゼンの様子 1

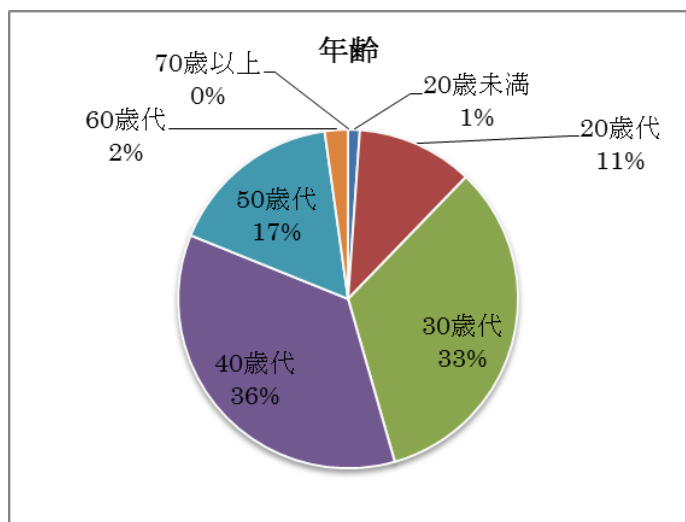
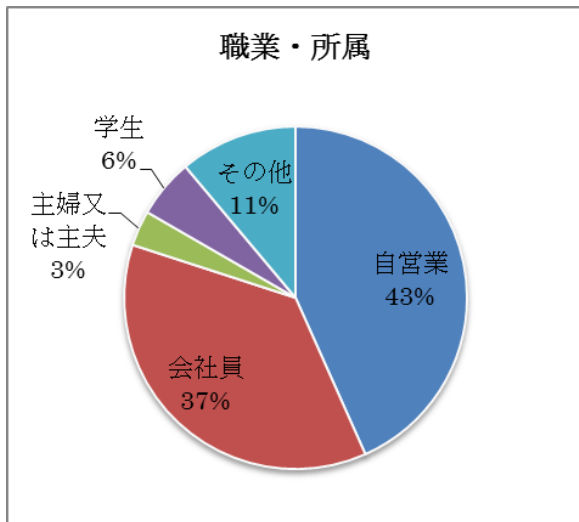


▲プレゼンの様子 2

【アンケート結果】

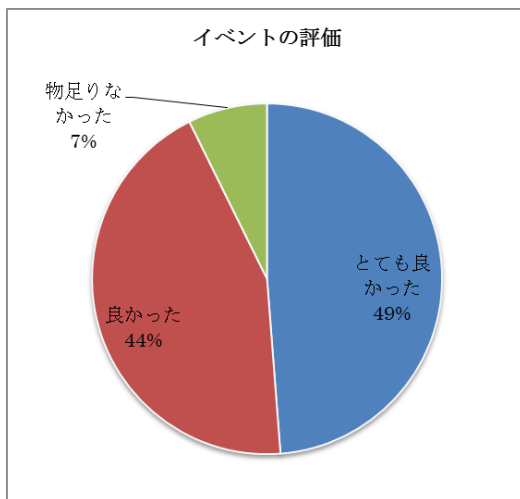
■参加者の属性

女性起業家だけでなく様々な職種、10代～60代までの幅広い年齢層の方がご来場



■イベントの評価

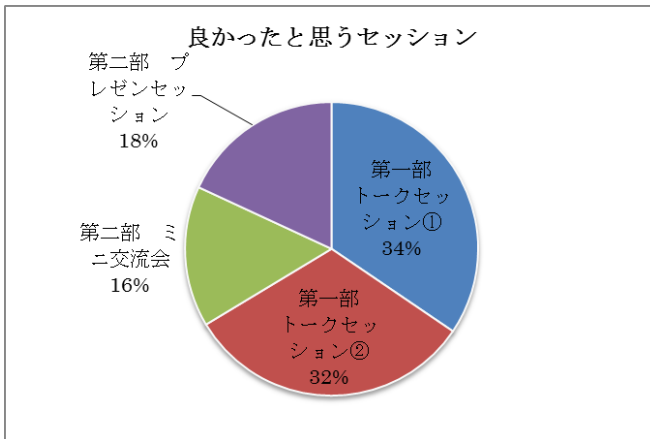
「とても良かった」「良かった」合計で93%の高評価



■参加者コメント（一部抜粋）

- ・登壇された企業全てが非常にユニークで**大変刺激になりました**
- ・本当に**知り合いたかった方とお知り合いになれました**
- ・実際の事例を聞きながら、自分の事業に重ね合わせたり、**モチベーションがあがった**
- ・みなさんの**パワーをいただいて、とにかくHAPPYなやる気がわいてきました**。これからはますますがんばり楽しんでゆきます
- ・**女性起業家の熱の高さ、プレゼン力、発想力が刺激になった**。コラボのプロセスも参考になった
- ・日々目標達成を積み重ねられている女性起業家皆様のお話でモチベーションが上がりました。参加者からの質疑応答があると更によかったです！
- ・なぜ事業を始めようと思ったかのきっかけがたくさん聞けてよかったです。事業計画、採算も聞けるともっとよかったです

■良かったと思うセッション



【今後の課題】

＜昨年の課題の改善＞

①参加者増：参加者数自体は微減（昨年度261名→今年度253名）

但し、昨年は学生向け企画があったため学生37名が参加数に含まれる。女性起業家、企業、一般の参加者を比較すると参加者数は増加した。

②満足度向上：アンケートの結果「とても良かった」「良かった」合計で93%の評価。

昨年は「参加者同士の交流の時間が少なかった、各セッションの時間が短い、複雑なプログラムにより理解が難しかった」という意見があったが、今年は「交流の時間が少なかった」「複雑なプログラム」という意見は無かった。

③プログラムの構成：学生ツアー及び2Fへ移動してのワークセッションを失くしたことで、よりシンプルなプログラムの構成になった。

＜今後に向けての課題＞

・同イベントの開催回数の増加、また、地方など開催会場の拡大などの可能性を検討する。

・参加者満足度の向上をはかる：トークセッションでは質疑応答があると良かった、事業計画・採算・実際のコラボ実現についてもう少し聞きたかった、短い時間で効率的に交流できる段取りだと良かった、などの声があった。

・複雑なプログラム構成であることもあり、受付やイベント進行において主催側スタッフが運業者をサポートする状況が散見された。主催側スタッフが注力すべき業務に集中できるよう、良質な業者選定や開催業者の固定化などで運営の品質向上を図る。

男女共同参画に向けた学生と企業のマッチングシンポジウム

(報告)

団体名 : 国立大学法人岡山大学, 一般社団法人岡山経済同友会, 岡山県

【開催趣旨・目的】

第3次男女共同参画基本計画で掲げる重点分野のうち、第2分野に「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革」がある。国立大学法人岡山大学、一般社団法人岡山経済同友会及び岡山県は、地元企業、自治体、大学等が連携し、地域社会全体でダイバーシティ推進に向けた環境をともに作っていくことを活動目標として、連携協力の方法を探ってきた。今年度は、それぞれの組織の持ち味を吟味し、それらを持ち寄ることで、連携協力関係を強めつつ、実際に地元の一般住民の男女共同参画に対する意識高揚を目指した。具体的には、地元企業と高校生・大学生を地元の大学及び自治体が繋ぐことで、両者の間で、男女共同参画に関する意識の交流を促し、それにより企業と学生、そして大学及び自治体がそれぞれメリットを享受しつつ、ダイバーシティに対する地元住民の意識を高めていくことを目的として開催した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

(名称) 男女共同参画に向けた学生と企業のマッチングシンポジウム

(テーマ) 男女共同参画の在り方を考える論文コンクールに入賞した高校生および大学生による講演と、男女共同参画や子育て支援等に積極的に取り組んでいる企業の事例を紹介することで、仕事と生活の双方の視点から、男女共同参画型社会のあり方について考える。

【日時】平成28年2月27日(土) 13時00分～17時00分

【場所】岡山大学創立五十周年記念館

【参加者数】81名

【プログラム】

- 13:00 開会
- 13:05 基調講演「仕事を続けてくれてありがとうー子から親へのエールー」
※事前募集した論文コンクール受賞者の高校生、大学生による講演
- 13:40 パネルディスカッション「男女共同参画の推進は誰のため？」
- 14:55 パネルディスカッション終了
- 15:00 男女共同参画に積極的に取り組んでいる企業の活動紹介(～17:00)

【シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題】

基調講演については、高校生及び大学生の目から見た、現在の日本社会において男女共同参画社会がどの程度実現されているのか、また、その重要性について聴衆に認識を深めてもらえる内容となったことが成果として挙げられる。

パネルディスカッションについては、岡山県知事や地元を代表する企業などが参加し、男女共同参画に向けての先進的な取組事例の紹介にとどまらず、海外における状

況と日本の違い等についての情報提供も行われるなど、産学官並びに学生を含め、男女共同参画社会を実現するための道筋についても考えることが出来、今後の地域の未来を考える良い契機となったことが成果として挙げられる。

課題としては、様々な手段（学生への一斉メール送信による周知、大学コンソーシアム岡山加盟校並びに中四国の高等学校へチラシ送付、大学記者クラブ及び経済記者クラブへのプレスリリース等）により広報を行ったが、結果として、参加者数が会場のキャパシティに比して、大変少なかったことが挙げられる。

【今後の課題】

今回のシンポジウムの主催者である、国立大学法人岡山大学、一般社団法人岡山経済同友会及び岡山県が、より一層連携を深め、男女共同参画社会の実現の重要性について、共通認識を持ち、それぞれの持つ強みを生かし、引き続き、社会への発信を行っていくことが今後の課題である。

例えば、国立大学法人岡山大学においては、学生への就職支援、キャリア教育にあたり、男女共同参画に関する意識づけを行う、一般社団法人岡山経済同友会においては、会員に対し男女共同参画に関する制度の推進を促す、また、岡山県においては、「おかやま子育て応援宣言企業」を今まで以上にPRし、男女共同参画を頑張っている企業のイメージアップや、優秀な人材の確保につなげてもらうなど、検討していく必要があると考える。